

スジアラ種苗生産技術開発

企画・栽培養殖部



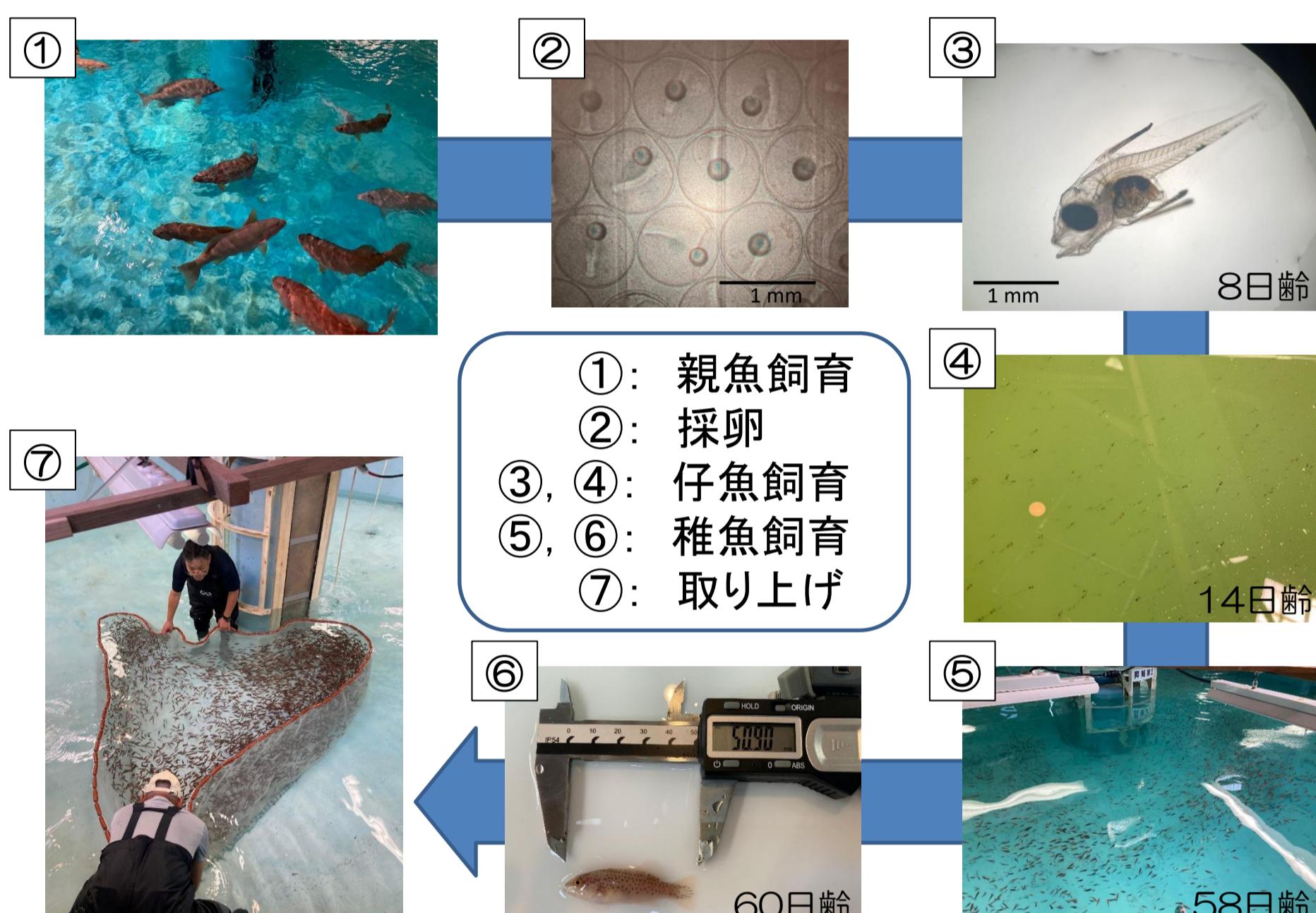
概要

スジアラ(*Plectropomus leopardus*)は本県水産業において重要魚種として広く認知されており、県内各所への種苗放流の要望は高まっている。

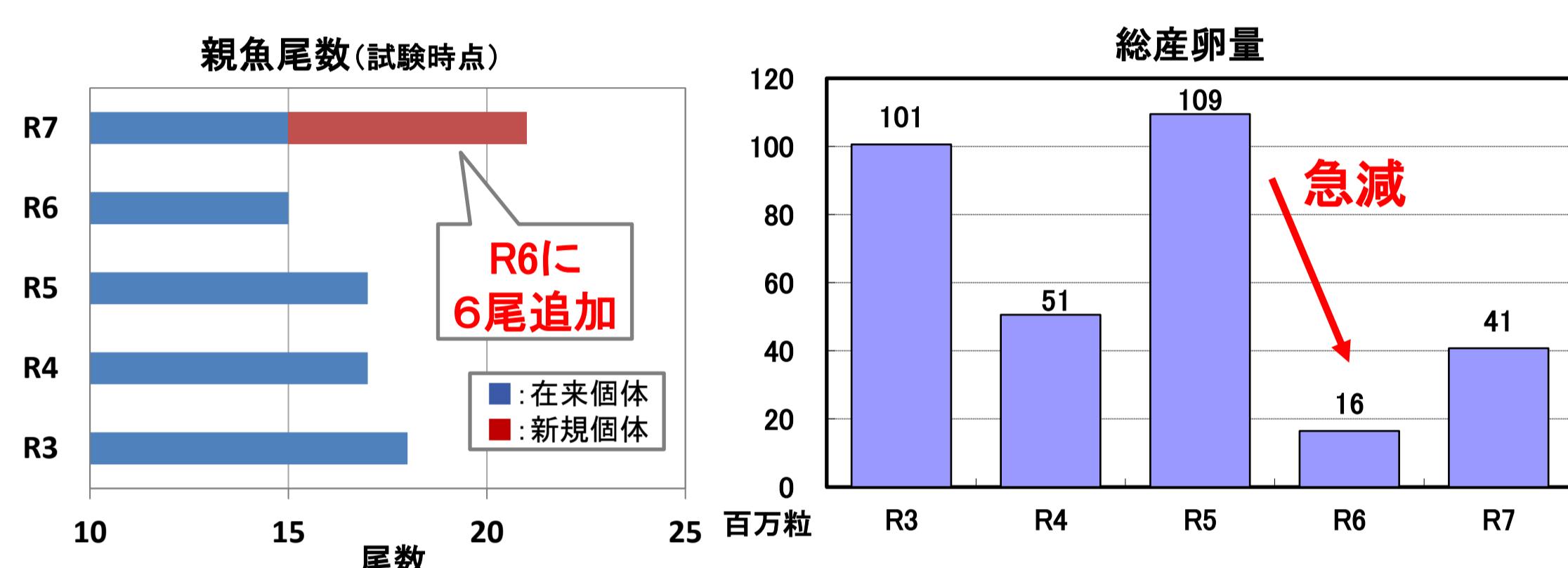
水産技術開発センターは平成8年度よりスジアラの種苗生産技術の開発に取り組んで来たが、生産成績の安定化、量産技術の確立には至っていない。

令和6年度には親魚の産卵不調が認められたため、令和7年度にかけて親魚群の更新・再構成に取り組み、産卵が復調傾向となった事例を報告する。

[種苗生産試験の全体像]



[課題：R6産卵不調への対応]



R3に親魚の大部分を更新。以降、
→R4, R5では追加・更新無し
→R6の産卵量が急減

R6に小型個体*6尾を追加

*スジアラは成長に伴い
はじめ雌として成熟する(雌性先熟)
40cm程の小型個体であれば
ほぼ雌であり、産卵が期待できる
(60cmを超えると雄に性転換する可能性)

[結果と今後の展開]

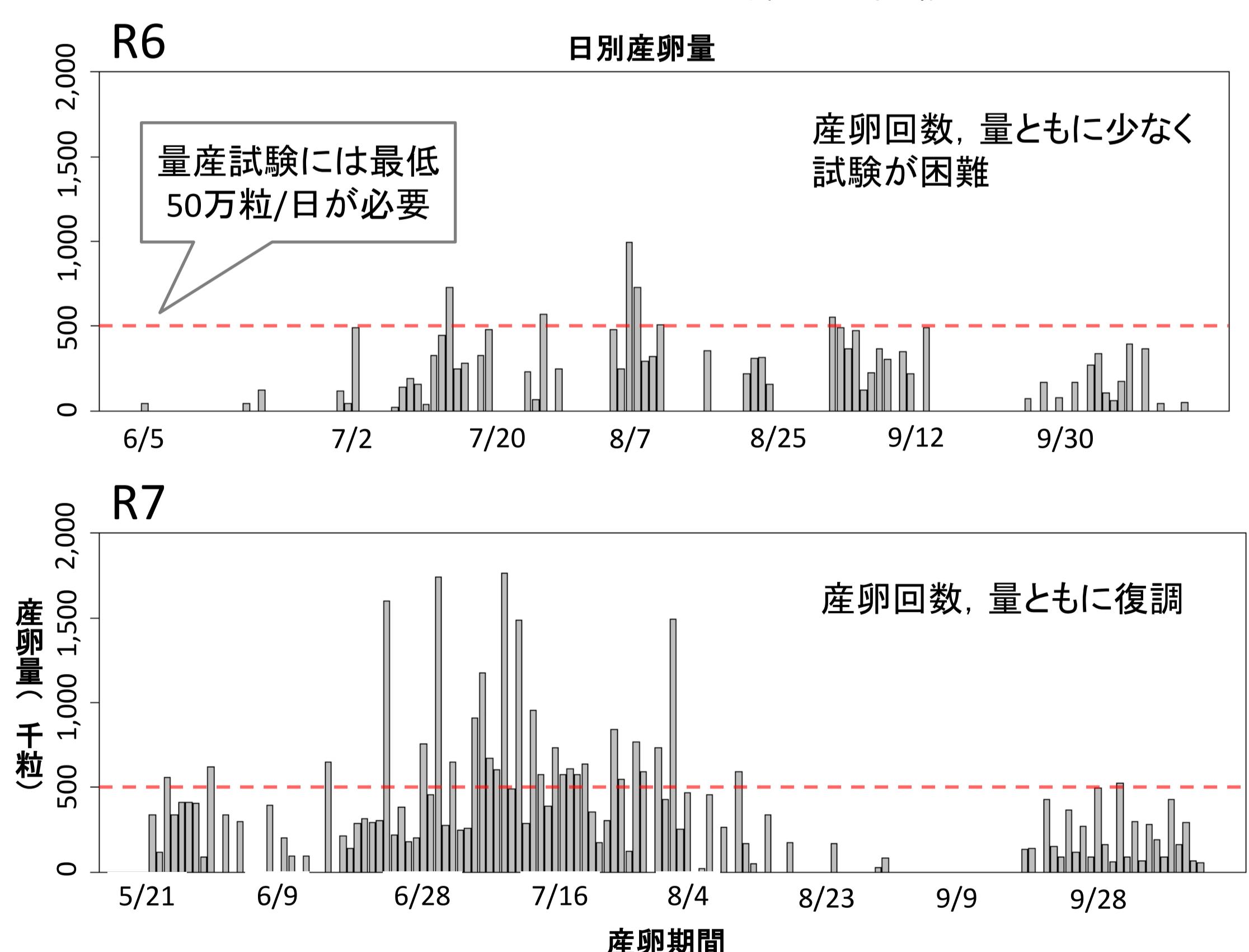
結果と考察

産卵量の増加を見込み雌親魚6尾を追加したところ、R7年度の産卵回数、量ともに復調傾向となった。産卵不調の要因として親魚の老齢化や群の構成(性比、体サイズ)の変化に着目。R6年度には群の雄化が進み、産卵に寄与する雌の尾数が減少していた可能性が考えられた。

今後の展開

定期的な親魚更新、なかでも雌親魚の新規追加が産卵成績の安定向上につながると推察されたため、今後も親魚群の調整を継続し、安定した産卵成績の維持を目指す。

図：R6およびR7の産卵量の推移



スジアラは成長に伴い雄に性転換
親魚群の雄化に注意

↓
雌親魚の追加が産卵量増加に寄与
産卵親魚の計画的な管理は重要



キーワード

スジアラ種苗生産、
雌性先熟、性転換、
群の雄化、産卵数、
親魚更新

いちおし